

病害虫防除技術情報第13号

平成27年7月17日

三重県病害虫防除所

**いもち病の発生が確認されています。圃場の点検を行い、
発生を確認した場合は早急に防除を行いましょう。**

1. 対象作物： イネ
2. 対象病害虫名： いもち病（葉いもち・穂いもち）
3. 発生状況

いもち病発生予測支援システム（ブラスタム）によると、6月中旬以降、県内の広い範囲で感染好適条件が現れ、病害虫防除技術情報第11号（6月30日）を発表しました。

7月上旬以降、繰り返し県内の広い範囲で感染好適条件が現れ（表）、一部で多発生圃場がみられ（図1・図2）、引き続き注意が必要な状況です。

表. いもち病発生予測支援システム(ブラスタム)による葉いもち発生時期の予測

2015年	桑名	四日市	亀山	津	上野	粥見	小俣	南伊勢	鳥羽	紀伊長島	尾鷲	熊野新鹿
7/05	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○
7/06	○	●	○	●	—	●	○	●	●	●	●	●
7/07	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	—
7/08	●	●	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—
7/09	●	●	—	—	—	●	—	—	—	—	—	—
7/10	—	—	●	—	—	—	●	—	●	—	●	●

- : 好適条件（葉いもち発生の好条件が全て満たされた。）
- : 準好適条件（葉いもち発生の条件が一部満たされた。）
- : 好適条件・準好適条件は満たされなかった。



図1. 多発生圃場における発病株の状況（2015年7月8日撮影）



図2. 多発生圃場全景（2015年7月8日撮影）

4. 防除対策

- (1) 圃場の点検を行い、発生を確認した場合は早急に防除して、病勢の進展および拡大を防ぎましょう。圃場を見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。
- (2) 育苗箱施用を行った圃場でも、残効の低下を考慮して、発生状況を確認しましょう。
- (3) 穂いもち防除は、出穂始めから穂揃い期に薬剤散布しましょう。
- (4) 飼料用水稻などの普通期水稻は、これから最も葉色が濃くなり、発病しやすい時期となるので注意しましょう。
- (5) QoI剤（ストロビルリン系殺菌剤）の使用は最大年1回とし、耐性菌の発生を未然に防ぎましょう。
- (6) QoI剤を使用したにもかかわらず、ずり込み症状などの発病があれば、病害虫防除所、農業研究所、農業改良普及センターや、関係団体へ速やかにご連絡ください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。